



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 146
R7. 7. 4
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~



小学五年生

「人生で大事なものは、みんな、この季節にあった」

私が好きな小説家の重松清さんの『小学五年生』（文春文庫）のあとがきの一説です。

自分の幼さをさらすようで、ちょっと恥ずかしくはあるのだが、どうやら僕の中には小学五年生の少年がいるようだ。四十代半ばを過ぎた今も、ほら、ちゃんとここに・・・と胸を指差したとたん、照れて隠れてしまうようなかたちで、いる。

不出来な悪ガキである。いい歳をして、くだらない冗談に腹を抱えて笑ったり、テレビドラマの憎まれ役の言動に本気で腹を立てたり、大好物の焼きそばを調子に乗って食べ過ぎて胃薬のお世話になったり、言わなくてもいい一言を口にしてよけいな敵を増やしてしまったり、逆につまらない意地を張って「ありがとう」や「ごめんなさい」が素直に言えなかったりするとき、ああ、小学五年生がいるなあ、と思う。

四年生でも六年生でもなく、五年生——理由を筋道立てて説明するのは難しい。ただ、僕はその年、生涯で最も数多く「親友」という言葉を使った。初めて女の子からラブレターをもらった。親にだって秘密があるんだと知ったのもその年だったし、学校の先生が必ずしも正しいことばかり言うわけではないと知ったのもその年だった。友達とわいわい騒いだあとで急に一人になりたくなったり、夜中に布団を頭からかぶって「死」について考えたり、翌朝になったら宿題を思い出して大あわてしたり、その日の夕食はやっぱり大食いをして腹をこわしたり・・・。「人生で大事なものは、みんな、この季節にあった」と僕は考えていて、それは今後はずっと変わらないだろう。（重松 清）

私も全く同じ感覚です。重松さんに共感します。私の中にも小学五年生がいます。坂下南小の70名の5年生の子どもたちにも、“かけがえのない小学五年生”であってほしいと切に願います。

いわきでの宿泊学習では、野外炊飯やキャンプファイアー、海辺での活動を通して、仲間と共に素晴らしい時間を過ごし絆を強くしました。

子どもたちには思う存分に小学五年生時代を謳歌して、心豊かな人に成長して欲しいと思います。



仲間と自分アピール発表会 その7

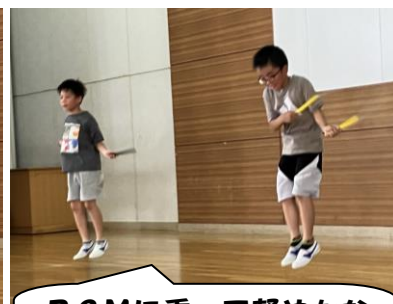
3日（木）に7回目の発表会を行いました。今回は、はぐくみ2組の子ども達による縄跳びと一発芸、ダンスの発表でした。学級の絆が強まりましたね！ 来週火曜日が最後の発表会となります。



草刈り機の一発芸
ウィーン、ウィーン!!



女子の二人はダンスを披露



BGMに乗って軽やかな
縄跳びパフォーマンス!